

●読書感想文コンクール 小学校低学年の部●

最優秀賞

佐藤 由旺（さとう ゆお）伊倉小学校 2年

題名：ライオンのこころ

図書：ライオンのこころ

ぼくは、この本をよんで、じぶんをかえるためには、あきらめずにゆうきを出してがんばることがたいせつだと感じました。

この本は、体も声も小さくて、だれからも気づいてもらえず、いわのしたでじっとおびえているネズミと、体も声も大きくて、だれからもあこがられるライオンが出てきます。あるひ、ネズミはじぶんをかえたくてゆうきを出してライオンにあいにくという話です。

ぼくが、この本をよんでいちばん心にのこったのは、ネズミ君がじぶんをかえるためにゆうきを出してうごいたところです。もし、じぶんだったらライオンのところになんて、とてもこわくて行けません。ネズミ君がかんがえていたようにライオンに食べられてしまうと思います。それでも、かくごをきめてライオンにあいに行くネズミ君をみると、それだけ今のじぶんをかえたいという強いきもちがとてもつたわってきてかんどうしました。それとくらべて、ぼくはどうなんだろうと今のじぶんをふりかえってみました。

ぼくは、べんきょうでむずかしそうなもんだいがあると、まずむりだ、できないと言ってやらずにあきらめることがあります。学校でもゆうきを出せず手をあげてはっぴょうもできていないです。ぼくは、じぶんをかえるためにゆうきを出してがんばったネズミ君をみるとはずかしくなりました。このままじゃいけない。ぼくよりも小さいネズミ君ができたのなら、ぼくにもできるかもしれないとじぶんのきもちがすこし前にすすんだ気がしました。

ぼくは、これからむずかしいことがあってもあきらめずにゆうきを出してまずやってみようと思います。ネズミ君の「ぼくがかわらなければ、なんにもかわりはしないでしょ。」ということばを思い出しながらがんばっていきたいと思います。